

人とまちを“魅せる” 若者たちの挑戦

YGP（八幡浜元気プロジェクト） リーダー 濱田 規史（八幡浜市）



かまぼこカーテン



清掃活動

◆清掃活動が原点

八幡浜元気プロジェクト（以下、YGP）が誕生したのは、平成18年8月。私と幼なじみの中根が温泉で語り合ったことがきっかけで動き出しました。最初の活動は、幼少期から慣れ親しんだ北浜公園の清掃活動。最初4人からはじめました。

清掃活動を続けていると、地域の方々から「若いのにえらいな」とか「どこの団体がやりよるん？」と声を掛けていただくようになり、地域の方々も次第に清掃活動に参加してくださるようになりました。子どもからお年寄りまで、所属もバラバラな方々が集い、清掃活動を通じて、地域の人の輪が広がりはじめました。地味な活動ではありましたが、地域の人と交流する大切な活動になり、後のYGPの成長にとって大切な出会いがたくさん生まれた活動でもあります。この清掃活動は、後に住民参加型清掃「クリーンプロジェクト」に発展し、今もなお継続しているプロジェクトになっています。そして、YGPは現在20代から30代の若者を中心に15人のメンバーで活動しています。

◆「一人の元気を、まちの元気につなげる」

私たちの活動は、清掃活動にはじまり、地域活動団体さんの支援活動や笑顔の素敵な人を紹介した情報誌「八幡浜笑人」の発刊、かまぼこ板を活用した「かまぼこカーテン」制作、まち育てワークショップ・プレゼンテーションの実施など、多岐に渡っています。

す。バラバラな活動に見えますが、私たちが大切にしているコーポレートスローガン「一人の元気を、まちの元気につなげる」を具現化したものになります。すべての活動において、「住民」をいかに巻き込んでいくかの視点を大切に、「市民性」を育む仕掛けをちりばめ行っています。



八幡浜笑人

◆「あるものを活かして、ないものへ育てる」

八幡浜にはたくさんさんの「地域資源」が点在しています。その価値を気づいているものだけではなく、不要なものや当たり前にあるものなどについて、他資源との組み合わせや違う切り口で見直してみると、新たなものができたりすることがあります。私たちの活動は、「地域資源」を掘り起こし、活用を行うことで、新たな価値創造を図り、地域の活性化につなげることを目指しています。

まちづくりというより、今、まちにある資源を活用して、まちを「育てる」という視点を大切にしています。

◆「若者の可能性」

アートプロジェクトとして「かまぼこカーテン」制作を行う際、東京から日本大学の学

八幡浜みかん熟



88プロジェクトポスター

この度、YGPの基軸のひとつである「地域資源活用」の考え方を具体的に実践していく「88プロジェクト」を起し上げ、かまぼこブランド「BOCO」の開発・普及を目指します。かまぼこを食べ終わった後に廃棄される「板」を回収し、積み木等の製品の製造やかまぼこ板を高く積み上げる競技「BOCOタワー」の普及を図ることで、八幡浜の特産品であるかまぼこの消費拡大及びリサイクルの推進を行っていきます。

ちなみに、「BOCO」とは、「かまぼこ」と「エコ」と「ロコ」（ハワイ語で「地域」という意味）を掛け合わせた造語です。

◆かまぼこ板のブランド 「BOCO(ボト)」

生約20人が八幡浜に約1ヶ月滞在しました。この1ヶ月は、八幡浜市民にとって刺激的な1ヶ月になりました。商店街を賑やかな声で駆け抜ける学生、真夏の暑い中、制作に取りかかる学生、地元の祭りに参加する学生。八幡浜に縁もないよそ者たちなのに、住民の皆さんは、気になって仕方がない。お菓子の差し入れや手伝いなどが自然に行われるようになったのです。学生たちの賑やかな声や熱意、発想などは、八幡浜へ新たな風を吹き込みました。若い力を活用することは、地元の人々を耕す「風」となり得る。そう実感したプロジェクトになりました。YGPは自らの若さを活かし「サプライズ」をしかけるだけでなく、外部から若者やよそ者を活動に呼び込みながら、地域を良くしていくことに挑戦しています。

◆「八幡浜モデルを全国へ発信」

YGPは今年9年目を迎えます。地域内外の応援してくださる方に支えられ、今まで歩んできました。昨年4月からは、八幡浜の道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」のみなと交流館の指定管理業務の一翼を担わせていただいております。今まで以上に地域により深く関わる機会をいただいております。YGPがこれまで培ってきた経験や人脈などをフル活用し、八幡浜の活性化に全力で取り組む所存です。

四国は日本の課題先進地であると言われるように、ここ八幡浜の事業モデルを、全国へ発信し、日本の社会変革モデルへと繋げたいと考えています。

◆「魅せる力が求められる」

「魅せる」。YGPで私がよく言っている言葉のひとつです。YGPメンバーの魅力がYGPという組織の魅力につながるし、ひいてはそれが八幡浜の魅力につながる。そう考えたときに、一人一人のメンバーの魅力を引き出し、活動に活かしていくことが大切なことであると考えています。それは、住民の皆さんや企業、商品などにも言えることで、その「魅せる力」が、今の地域が抱える問題を解決する手法のひとつになり得るし、YGPはそこからの地域活性化アプローチにも挑戦していきたいと考えています。